

1. はじめに :

2020年4月24日

37回 竹本 修文

① 「**奴隷売買および制度の廃止 ABOLITION OF SLAVERY**」 法案に関する **6年前の記事**を紹介する。

英国放送 BBC のリバプール版 (BBC Local Liverpool) 2014年9月24日付けの原文の URL を記す。

http://www.bbc.co.uk/liverpool/content/image_galleries/slavery_liverpool_gallery.shtml?8

② ビートルズのヒット曲「**Penny Lane ペニーレイン**」はリバプールの**奴隷商人 James Penny** を讃える歌だった?

ポールとジョンが作った歌でリバプールの**ジョン・レノン**が住んでいた**近所**の通りの名前で、Penny とは、奴隷商人 James Penny の事で、200~300トンの輸送船を複数所有していて、西アフリカから西インド諸島へ1航海で500~600人の奴隷を、11回に亘って輸送する事業に出資してきた。奴隷の2/3は男で1/3は女であった。1788年2月に英議会で奴隷貿易調査委員会が設置され、ジェームズ・ペニーは「取引は人道的だった、過去20年間リバプールでは船を建造する度に大きな改善がなされてきたし、船内では船員も奴隷も可能な限り細かく注意を払われていた。」と述べている。彼は英国議会で奴隷貿易に賛成の立場で、「奴隷売買および制度の**廃止**」法案に**反対**する演説を行い、数々の偽証発言で法案成立を遅らせ、リバプールの経済発展に貢献した功績として、1792年に市から**銀製の食卓飾り皿**を贈られた。**2006年7月**、リバプール市会議員バーバラ・メイス女史から、奴隷商人の名前が付いた通りの名前を変更する提案がなされた。議会で大きな議論が起きたが、「ネガティブであっても歴史の一部であり、見栄えを良くするべきでない」、と反対されて提案は撤回された。(ジョン・レノンの祖先が**ジェームズ・ペニー**と何らかの関りがあつたら気の毒だから問題にしない?とか)



手かせ足かせ



Penny Lane の標識 朱色の落書き



食卓の中央に置く銀製の飾り皿

2. リバプール

① **リバプールの位置** : ロンドン/ユーストン駅から約 300 km、特急で 2 時間余り。

2000 年前のローマ時代の地図では、この辺では**岩塩**が採れ、**チェスター**が最大のローマ都市だった。兵士に支払う給料が塩だった(サラリー-salary も塩 salt も語源はラテン語で sal)。チェスターから北東方向へは**ローマの道**が通っていたが、現在リバプールがある所は古代から中世にかけては村すら無かった。近代になって**港湾整備**を進めて**奴隷貿易**と海外の**植民地経営**で綿花などが入ってきて、周辺の石炭産業と共にランカシャー州を中心に産業革命を進めた。当時のランカシャー州は現在のリバプールとマンチェスターを含んでいたが、その後リバプールはマージーサイド州、マンチェスターは大マンチェスター州と分離し発展していった。工場労働者として植民地だったアイルランドから大勢の労働者が移住してきた。



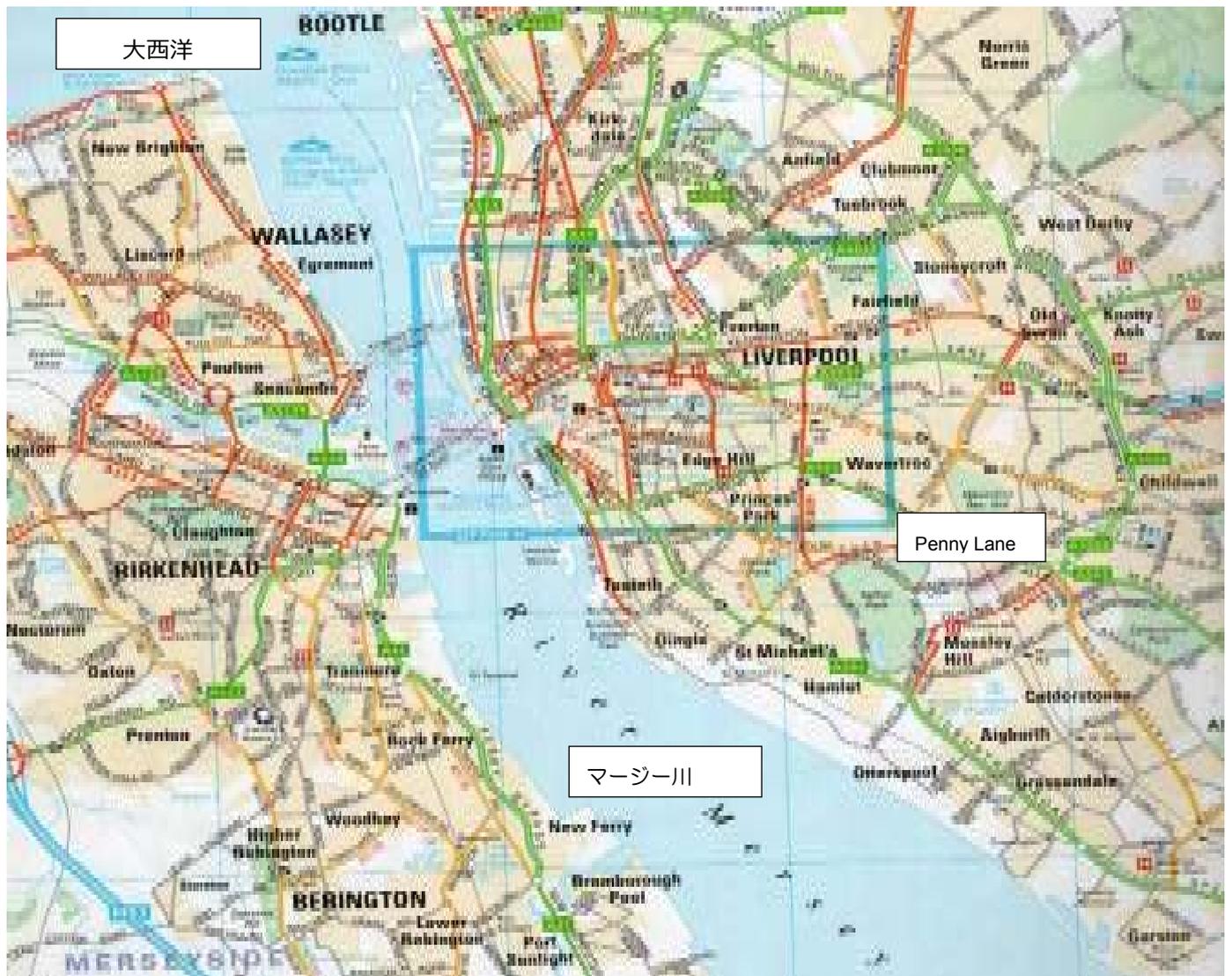
鉄道発祥の国が民営化に失敗して「遅くて高い」鉄道二流国



ロンドンとリバプール・マンチェスターの位置関係

② 港町リバプール

島国であるイギリスには大小 300 の海港があり、その上に 5000km を越える航行可能な河川と運河（今上陸下が Oxford 大学で研究されたテーマ）を持つところから、内陸港も数多い。最大 10 港の内、首位のロンドン以下 6 港までが河川・運河港で占められている。これは海港がヴァイキングなど外部から略奪されてきた歴史と、イギリス周辺からフランス西海岸の **大西洋の干満の差** が非常に大きい事が理由と思う。世界最大の干満の差はカナダの東海岸で 16m もの所があるが、イギリス周辺でも 10~14m 位の所が沢山あり、大型船が寄港する港と言えば、必ず **ドック** がある。リバプールはマージー川に面した河川港で港湾施設は川の両側にある。マージー川は東の **マンチェスター** と運河で繋がり、西はすぐに **大西洋** である。したがって、**大西洋の干満の差** の影響を受けるために 17 世紀からドックの建設を進めて、現在の港湾が出来上がった。



③ 離れて56年経ってもビートルズの街

ビートルズはリバプールの前に西ドイツのハンブルグで15~16歳でデビューし好評を得ている。リバプール出身のジョンとポールが中心になってリバプールで最終的な四人になったが、リバプールのキャバーン・クラブ **Cavern Club** は客席が300と小さくて1961年2月から63年8月の最後の演奏までの2年半だけで、演奏回数は合計273回である。現在でも素人歌手が次々と演奏しており2ポンドで見られる。マシューストリート周辺にはいくつもライブ・ハウスがあり、賑わっている。本稿でビートルズの話をする理由は、四人の内リングスター以外の3人が**アイルランド人**で、イギリスに400年間植民地化されてきた民族であり、日本で言えば、在日朝鮮人のような存在だからだ。祖先がアイルランド出身の市民は50%以上。宗教ではイングランドはローマ教皇を頂点とする**カトリック**だったが、16世紀に分離独立してイギリス王を頂点とする**アングリカン**（聖公会）教会を創設した。アイルランドはカトリックでイングランドから見れば少数派、人種的にもケルト系ゲール人で少数派、リバプールは少数派民族と少数派宗教が一番先鋭な形で露出している町である。



ビートルズの銅像と爺さん



ビートルズゆかりの聖地、キャヴァーン・クラブ前の婆さん

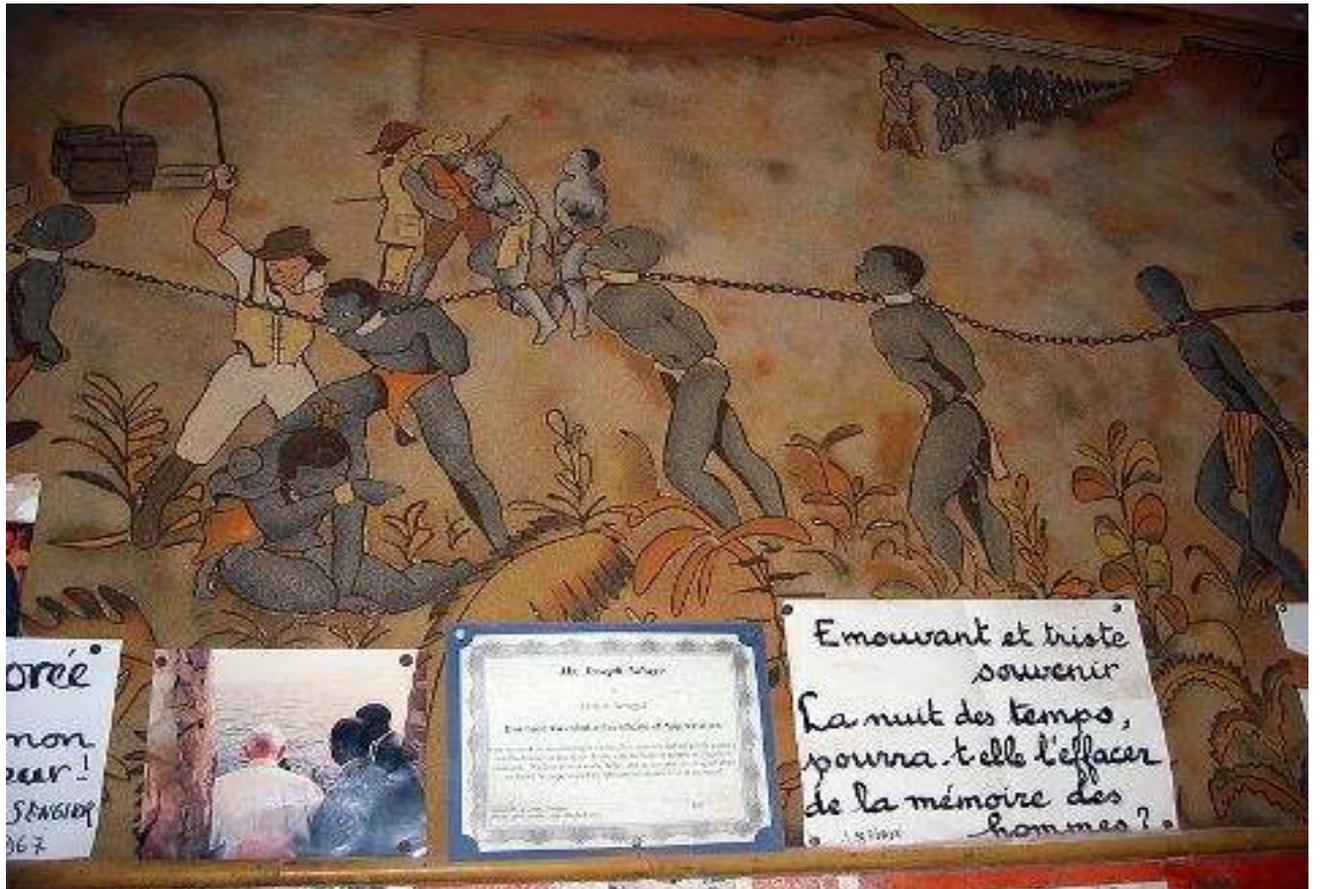
3 奴隷貿易の衝撃 —— 竹本は何故そんなに奴隷貿易に関心を持ったのか？

① **初めて見た奴隷船**：成田開港の前年、1977年にロンドンを訪問し蝸人形館「**マダム・タッソー**」を見た。実に良くできた生身に見える蝸人形が沢山展示されており、吉田茂の人形もあって嬉しかった事だった。西アフリカからアメリカ大陸へ奴隷を運搬する奴隷船の内部を実にリアルに再現した模型を見て大きなショックを受けた。1981年の4回目の訪問が家族と3年間になり、日本からの訪問客を案内した時には奴隷船は無くなっていたように思う。

② 翌78年はアメリカの幾つかの国際空港で、航空保安施設の電源設備の国際規格 ICAO に準拠した保守管理状況を視察した。24時間運用の空港であり、空港の地下や周辺地域にまで設置されている設備の保守管理となると遠隔監視システムでは出来ない人海作戦もあり、大勢の黒人が働いていた。特に黒人奴隷が大勢働かされたプランテーション（大農場）があった南部の**アトランタ空港**では、旅行者から見えにくい裏方の力仕事に大勢の黒人、特に女性が多く働いていて、**マーティン・ルーサー・キング**牧師が活躍し、暗殺されてから10年たつのに、黒人差別は続いていると実感した。

③ 1990年に西アフリカのセネガル共和国の首都**ダカール**へ、日本の援助で建設した小さな発電所の開所式に出席した。1週間ほど滞在し、セネガル政府の案内で奴隷集積地で名高い**ゴレ Gorée** 島などを観光した。寒い12月だったので暖かい保養地を持たないドイツから沢山の観光客が来ていて一緒にガイドの説明を聞いた。数百人の奴隷は手足を鎖で繋がれたまま船倉に寝かされて10日~2週間航海すると、無事に上陸できるのは約半数だったとの事。船旅に耐え、過酷な農園での作業に使える体力がある屈強な商品価値の高い若者を捕まえる方法は、「**現地人の奴隷商人に武器や金を渡して子供をさらわせる・・・そうすれば必ず親が表に出てきて子供を探しまわるので簡単だった・・・**」という説明には観光客全員が顔をしかめ、ドイツ人の女性の中には顔からハンカチを離さない人もいた。セネガルはフランスの植民地だったのでこの奴隷はカリブ海の**ハイチ**

などフランス植民地の農園に運ばれたそうだ。次の写真は海から見たゴレ島の奴隷集積場とその内部と壁画



ゴレ島の壁画、小窓の向こうにローマ教皇ヨハネ・パウロ二世の後ろ姿 出典 House of Slaves from Wikipedia

- ④ その頃から約 10 年間で、フランスと日本の重電機器の合併会社の非常勤役員としてフランス各地を頻りに訪問する機会があったので、暇があれば博物館やワイナリーを訪ねた。ボルドー Bordeaux はフランスの奴隷貿易拠点であり博物館もあるが奴隷貿易の事は簡単な展示だけだった。フランスを代表する港湾都市ナント Nantes はアンリ四世のナントの勅令で有名だが、30 年後に太陽王ルイ 14 世が「ナントの勅令を取り消す勅令」を出していた。中世のブルターニュ公国の首都で城郭があり、建物の一角に奴隷博物館がある。しかし、通り一遍の展示で失望した。



3. 西洋史の勉強

① イギリスは 2000 年前にローマ帝国に征服されたが、帝国の中で兵士が喜んで行ったのが北アフリカの現在のチュニジアであり、理由は暖かくて食料が豊富だった、反対に**最も嫌われたのがイギリス**（緯度はほぼ樺太からカムチャッカ）で帝国内で最も寒くて農作物は家畜の餌程度しかできなかった。私は電気技術以外の事、特に西洋史は何にも知らなかったので、60 歳を過ぎた頃から平日の夜は知人のイギリス人が経営する私塾で、土曜日は朝日カルチャーセンタで西洋史を勉強した。イギリス駐在時代は平均週に 1 回、3 年間で約 150 回ヨーロッパ中を旅し、暇になったら各地の歴史などを勉強しようと思った課題が沢山あったので、貪るように勉強した。

② ヨーロッパの奴隷：

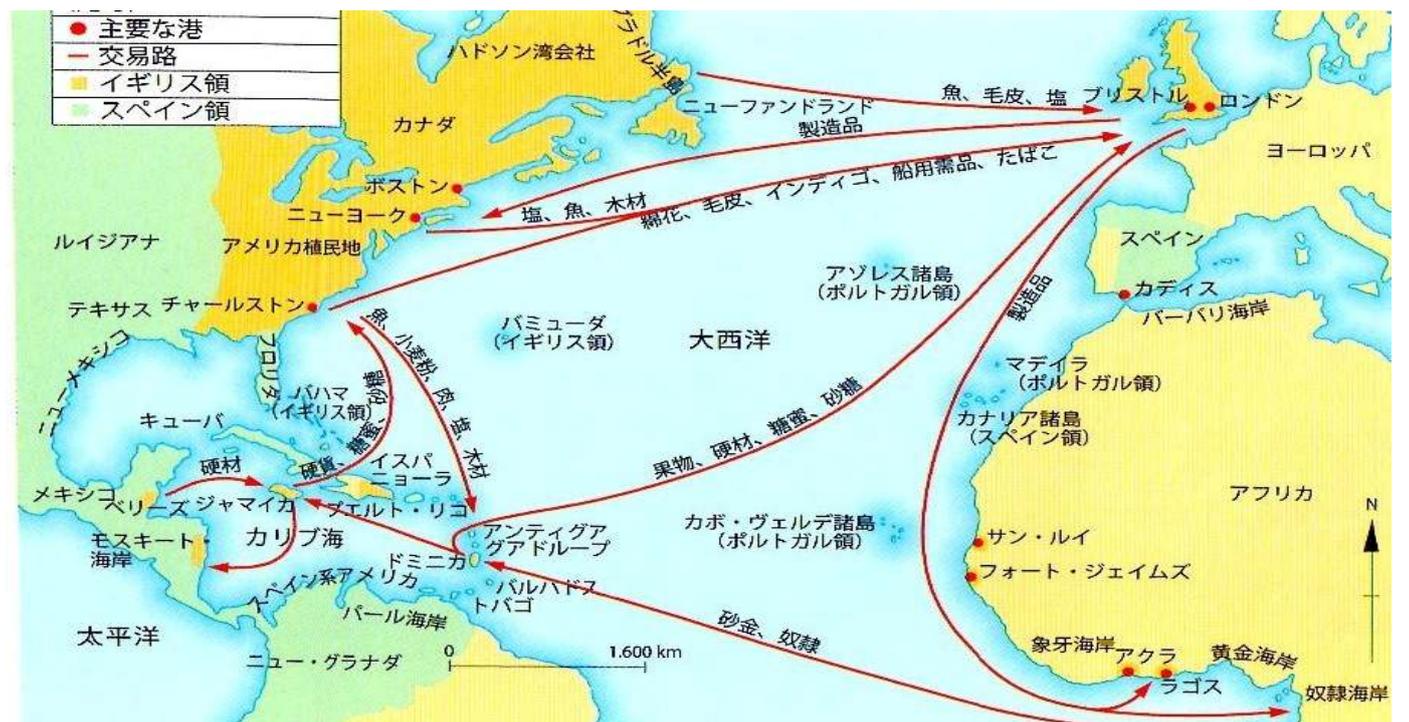
時代区分： ヨーロッパでは西ローマ帝国がゲルマン人の襲撃で崩壊した 5 世紀までを古代、その後イベリア半島をイスラム教徒から取り戻し（レコンキスタ）、コロンブスが新大陸を発見した 15 世紀までを中世、その後を近代と言う。

・ **古代：** ギリシャ・ローマ時代など古代から奴隷制度はあった。**ギリシア時代**の 1000~1500 もの都市国家（ポリス）にも**ローマ共和政及び君主政（帝政）**時代にも奴隷の身分はあった。民主主義が始まったと言われる古代ギリシアでも、**奴隷・女子・13 歳以下の男子を除く男社会の中だけの民主主義**だった。戦いに敗れて奴隷にされた者の他に、ローマ帝国時代に穀物地帯であった北アフリカの現在のリビア、チュニジアに東欧の**スラブ人**が奴隷として売買されていた。地中海を中心とするギリシア・ローマ時代には近代のアフリカ黒人奴隷は存在せず奴隷は白人であった。奴隷の英語の **slave** の起源には諸説あるが、現東欧のスラブ人が戦争に敗れて奴隷にされて帝国の東半分の主要言語のビザンツ・ギリシア語で Sklabos と呼ばれた。その後帝国共通言語で軍事用言語のラテン語で Sclavus となり、古仏語で esclave そして英語の slave になったようである。本稿の対象となる近代の奴隷はアフリカから欧米だが、**古代の奴隷はヨーロッパから北アフリカに運ばれていた**のである。

・ **中世：** 中世にはアフリカの黒人奴隷もリバプールという町も存在していない。中世の後半にはパプアニューギニアからインド付近が原産の砂糖キビを、海のシルクロードを経由して地中海各地に運んでいたイスラム教徒が、キプロス島等で栽培し始めて**スラブ人**の奴隷を使った事もあったが、キリスト教徒がイスラム教徒を襲撃した十字軍の時代に廃止したようである。

・ **近代：** コロンブスの新大陸発見や 16 世紀のポルトガル・スペイン中心の大航海時代以降に、**航海の為の補給基地**としてアフリカ大陸や周辺の島にヨーロッパ人が進出して、現地人を使用し始めたのが**奴隷供給地の始まり**である。本稿のイギリス・リバプールの奴隷貿易の対象は、**西アフリカの奴隷**と彼らを働かせる**北米のプランテーション（大農園）**経営である。

4. 大西洋航路の三角貿易



地図は 1770 年代のイギリスの三角貿易図である(出典：「図説」世界の歴史、創元社)。自国（本図はイギリス）、奴

隷入手先の西アフリカ、カリブ海や北米南部の植民地が三角形の位置関係になっているので、そう呼ばれている。自国がフランスやスペインの場合も似たような三角貿易であるが、北米の植民地が異なってくる。大航海時代のリーダーはポルトガルとスペインであり、西アフリカに交易の中継地として拠点が作られた事が奴隷入手先になり、その後イギリスやフランスの進出で奴隷貿易の主体も航路も変わってきた。大航海時代のリーダーであるポルトガルはアフリカ全土に沢山の交易中継地を持ち奴隷を入手できたが、奴隷を送る植民地はブラジルだけだったので三角にはならない。本稿ではイギリスの例を説明する。

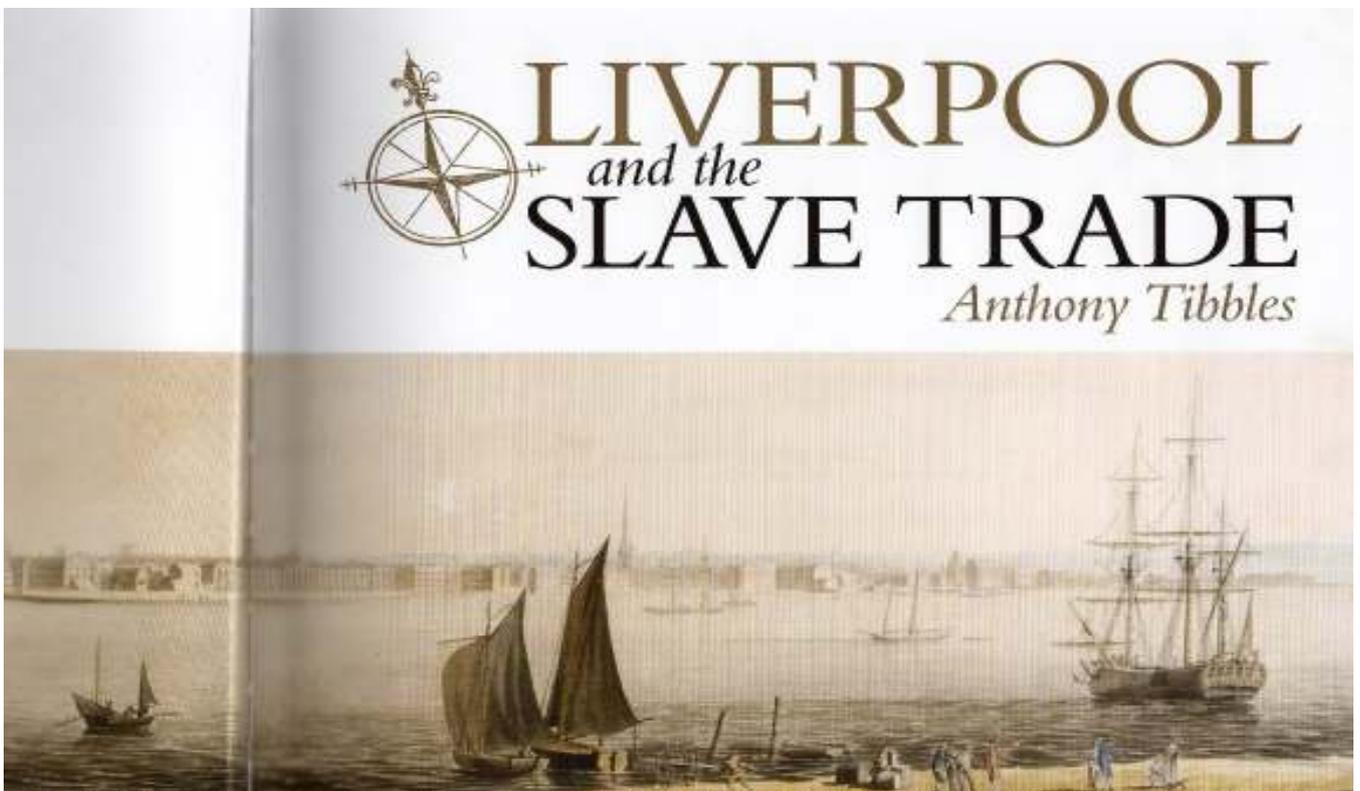
イギリスの初期の奴隷商人は**ロンドン**と**ブリストール**であり、以前から商業港として設備は出来上がっていた。奴隷の入手先は現在のガーナ・ナイジェリアで要塞化した現地中継基地を有していた。イギリスからここへは現地が欲しがる武器・食糧など**製造品**を運搬し、ここから**奴隷**に積替えて植民地へ送る、大型帆船であり天候（風）次第だが10日～2週間かかった。主に植民地の農園から砂糖や綿花などをイギリスに運搬する。殆どの歴史の教科書にはこの程度しか記載が無い。

教科書で勉強しても下記のような疑問が残っていた。

- ① 奴隷船は西アフリカと北米の間を往復していたのか？
- ② イギリスには奴隷は来なかったのか？イギリスの現在の黒人はイギリスの植民地でイギリスの**ヴィクトリア女王**が皇帝を兼務した**インド帝国**の出身者で黒人と言うよりは濃い褐色で現在のインド・パキスタン・バングラデシュゆかりの人々である。彼らとは別にロンドンには西アフリカから北米に送られた後で解放されてロンドンに来た人たちが多く住む地域があり、肌の色は黒いが奴隷時代よりずっと後の話である。
- ③ イギリスはアメリカより早く法律上は**1807年に奴隷制を廃止**したというが、実態はどうであったか？

このような疑問に対する回答書が出版され、**リバプール国際奴隷博物館**（International Slavery Museum）で入手したので、以下は、リバプール大学出版の専門書門書「**リバプールと奴隷貿易**」（Copyright ©2018 Anthony Tibbles）の約10%分の要点を翻訳して紹介する。

5. 「リバプールと奴隷貿易」 Liverpool and the Slave Trade の要約



表紙 Front Cover of **Liverpool and the Slave Trade**

はしがき： by **Dr David Fleming** OBE, Director of National Museums, Liverpool

大西洋ルートの不名誉な奴隷貿易については、イギリス人はリバプールが過去やってきた事を直視せず、何年もの間無視

まった。しかし、サトウキビ栽培と砂糖の製造には多くの人出が必要になり、農場労働者としてアフリカ大陸からアフリカ人を輸入し始めた。そしてヨーロッパで砂糖の需要が伸びるにしたがって、スペインとポルトガルはカリブ海と南米の植民地にサトウキビ農園を開拓していった。その過程で彼らは土着の人々を殺害し、あるいは新しい天然痘など土着人に免疫がない疫病を持って人口は1/10程に激減して労働力が大きく不足した。しかしそれは初期段階での減少であり、農園主はポルトガル人のサオメでの経験を模倣してアフリカ人奴隷の労働者を輸入した。このような方法でヨーロッパ人と植民地経営者たちはアフリカ人を奴隷にして搾取しアメリカ帝国を維持していった。

③ 南北の奴隷貿易

大西洋横断奴隷貿易はそれ自体を独立した行為と見做す習わしだが、実際には二つの貿易が行われていた。一つは赤道の北側をベースにしたヨーロッパの商人の貿易であり、もう一つは赤道の南側で行われていた貿易だった。南側の貿易はブラジルと西・中西アフリカの間で行われていた互恵的貿易だ恐らく50万～100万人の奴隷が南米に送られた。

北側の貿易は大抵の人が知っている通りリバプールの船が参加していたもので、ほぼ700万人の奴隷を南北アメリカに輸送していた。この貿易は三角貿易の形で行われていた。第一の航海はヨーロッパの大西洋海岸側の港から商品載せてアフリカ海岸に運び、そこでアフリカ人奴隷と積替える。第二の航海—「middle passage 中間航路」と呼ばれていた—では船は人間貨物を通常は6～10週間かけて運んでいた。



出典：Liverpool and the Slave Trade

殆どの船はカリブ海諸島と北米に行き、船長は奴隷を売るか現地のエイジェントに引き渡して将来売却する。

そして、彼らは砂糖など奴隷が生産した商品載せてヨーロッパに帰る。時には商品ではなくて奴隷売却完了書類だけを持ち帰り帰国後換金した。全航海には通常は9～12か月かかったが場合によってはもっと長い日数がかかる事もあった。

④ イギリスの奴隷貿易参入：

スペイン・ポルトガルと比べると、イギリスを含む北ヨーロッパ各国は南北アメリカに植民地を獲得するのが比較的遅かったし、アフリカ人奴隷貿易を始めるのも遅かった。West Country(イングランド南西部地方)のJohn HawkinsやFrancis Drakeなどの私掠船(海賊)船長達は1560年代にスペイン・ポルトガルの植民地へアフリカ人奴隷を運ぶ仕事を請け負っているが気が向いた時に数回やっただけである。(感想：海賊ドレイクはスペイン無敵艦隊を破った1588年以前には奴隷貿易にも手を染めていたんだ。そして暴風雨が味方して無敵艦隊を破ったら、エリザベス女王から貴族Sir Drakeになった)

イギリスが奴隷貿易に取り組み始めたのは1640年代になってからである。後にピューリタン革命で処刑されるイギリス王チャールズ1世(1625-1649)の在任中にイギリスは近隣の北ヨーロッパの国々と同様にカリブ海諸島に植民地を獲得していった。それらは、バルバドス Barbados, セントキッツ St Kitts, ネビス島 Nevis, アンティグア Antigua, バーブーダ Barbuda, モンセラット Montserrat, アンギラ Anguilla であった。一番大きい島がジャマイカで1655年にスペインから取り上げたものだった。そこには初期の砂糖産業がありお蔭でイギリスはカリブ海諸島でトップになった。産業は急速に発展し、イギリスはライバルの例に従って農園の労働者としてアフリカ人を輸送した。下図の出典：山川 詳説世界史図録(第3版)

同時期にイギリスの北米植民地へのイギリス人移住者は単純作業や家庭内雑用の為にアフリカ人奴隷を使うようになった。イギリス商人が奴隷売買に関わり始めた時から彼らは殆ど即座に最も活発な奴隷商人になり、彼らが獲得した地位は **1807年の奴隷売買及び制度の廃止**まで続いた。イギリス人の奴隷貿易は当初はロンドンを拠点とする商人に占められていた。

彼らは、**王立アフリカ冒険商人会社**

(Company of Royal

Adventurers Trading to Africa)

を結成し、1660年には西アフリカ貿易の独占権を与えられた。

このグループは1672年に再編され後にイギリス王**ジェームス二世**となるヨーク公を筆頭とする**王立アフリカ会社** (Royal African Company) となった。当時独占会社は決して一般的ではなかった。特に、既に新大陸の植民地と強い貿易関係を築いていたプリーストールの商人達には独占権は無かったし、数が増えつつあった個人の貿易商人やもぐり業者の中には違法な航海をする者が現れつつあった。1688年の名誉革命後にはイングランド銀行の創設や経済活動ルールの規制緩和などが行われた。王立アフリカ会社の奴隷貿易の独占権は既に薄れつつあったが、1698年には正式に廃止された。



▲砂糖生産と奴隷労働 西インド諸島では17～18世紀にアフリカからの黒人奴隷による砂糖生産がおこなわれた。サトウキビをしぼり(正面)、液状にし(手前)、さらに煮たてている(手前左右)。図は17世紀 オランダ領の島での作業風景を伝えたもの。



⑤ リバプールと奴隷貿易

初期の奴隷貿易には、大西洋横断貿易で既に実績のあるロンドンとプリーストールの商人が参入した。18世紀の最初の10年間にロンドンは年平均50隻の船をアフリカに送り、プリーストールは約6隻だった。これらに比べるとリバプールの奴隷貿易参入はずっとゆっくりと始まった。1696年に2隻の船(船名は不明)がカリブ海のモンセラット島にアフリカ人奴隷を送り、独占権が廃止されてから2～3年の間に8航海した。一度中断してから1710年までの間に更に2航海し、航海が定期便化したのは1714年からであった。

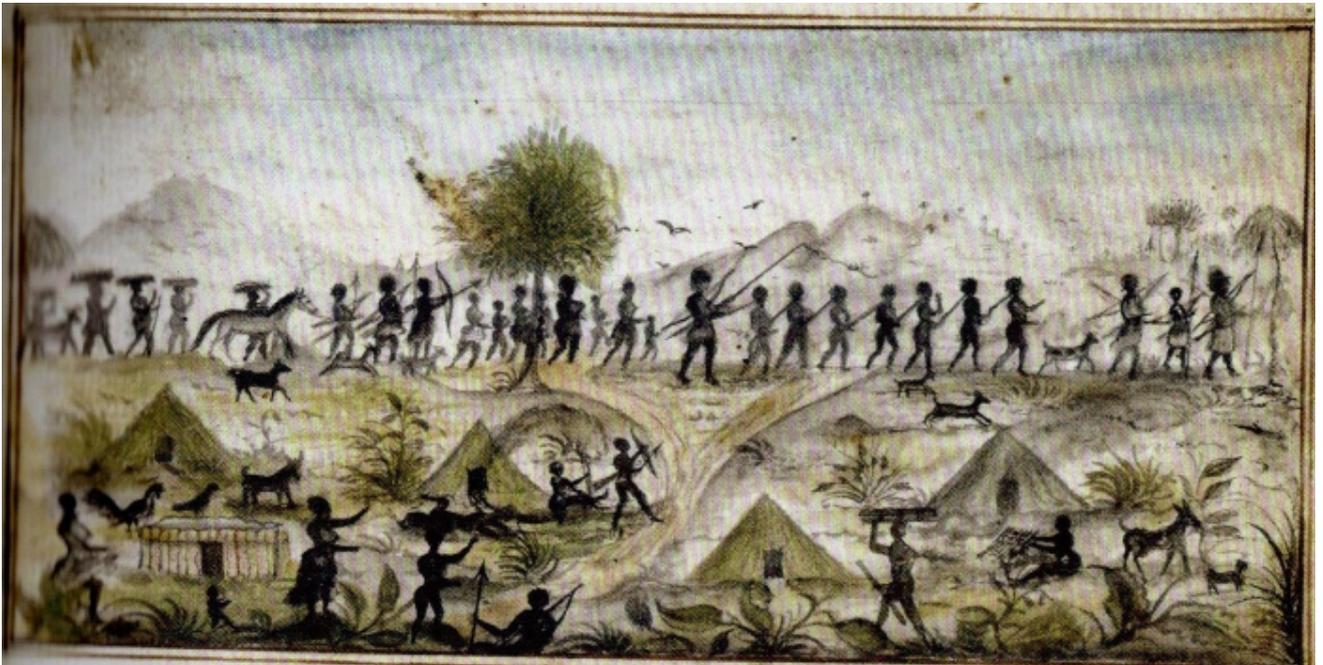
ロンドンやプリーストールより遅れた理由の一つは、リバプールの港湾があるマージー川の河口にあって**海の干満の差**が大きくてドックを建設しなければならなかったからである。1715年にはドックが完成した。そして18世紀中にさらに5つのドックが完

成した。これにより、リバプールは奴隷貿易を含む大西洋航路の貿易に成功した。（注：造船所のドックは空にすることが出来るので Dry-dock と言う、リバプールやロンドンの港湾のドックは外洋の干満の差が大きくて水位を調節する目的であり、空にならないので **Wet-dock** と呼ぶ）



当時のリバプール港の地図、沢山のドックがある

出典：Liverpool and the Slave Trade



奴隷商人に引き渡しに鎖でつないで行進、下半分は残された家族 出典：Liverpool and the Slave Trade

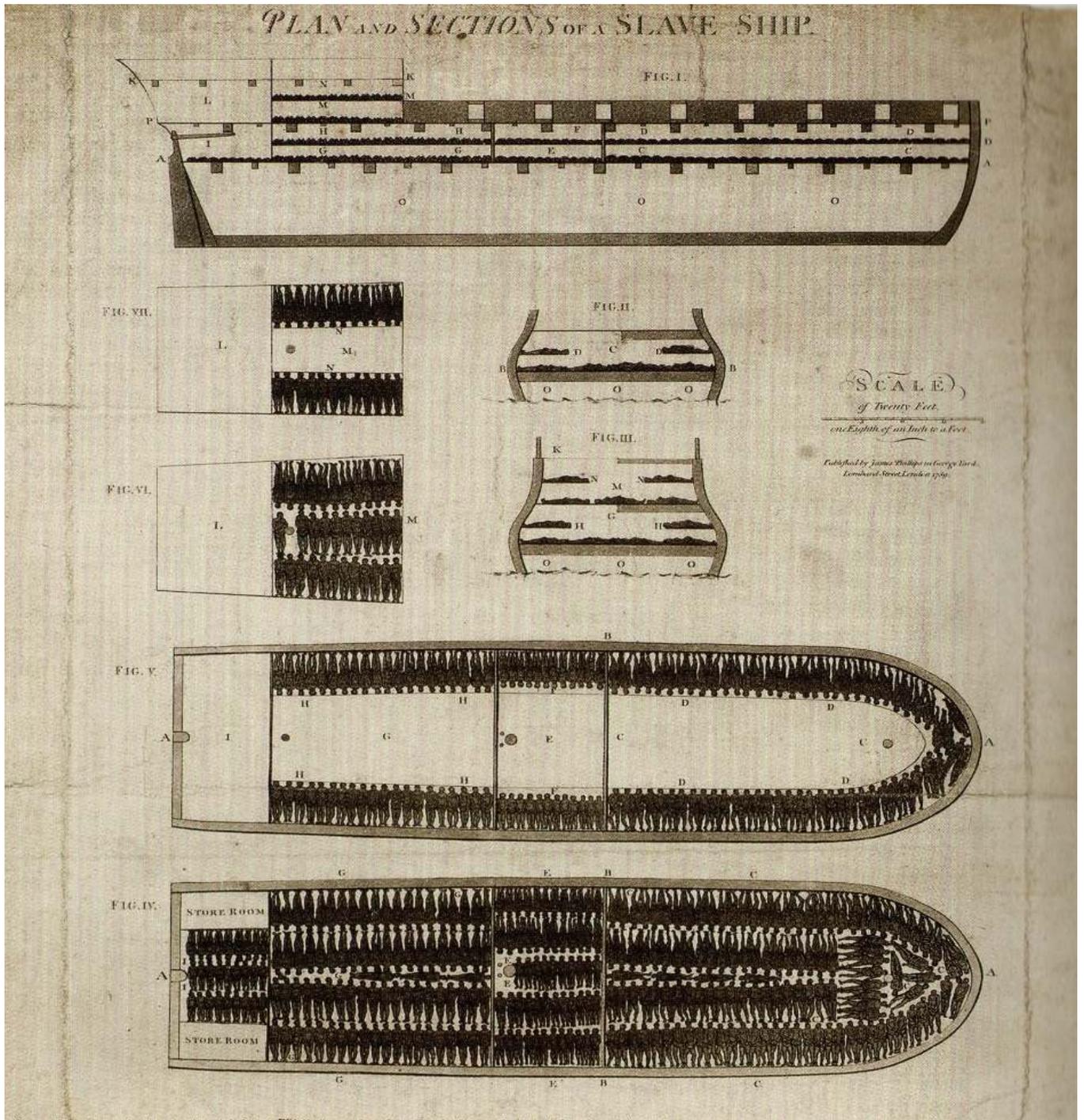
1730年代から1740年代までにリバプールからの奴隷貿易は劇的に拡大し、1750年までにリバプールは英国の他の港からアフリカに行く貨物船の合計より多くの貨物船を送り出した。Liverpool は、イギリスで最も残酷で非人道的な貿易に関わってきた港湾都市であり、1780年から1807年までに**イギリスの全ての港から出発した奴隷船の80%がリバプール発で、全ヨーロッパから出発した奴隷船の50%がリバプール発**であった。

ヨーロッパからの三角貿易が活発であった1640年代から1800年代までの1世紀半余りの間で600万人以上のアフリカ人が大西洋を越えて運ばれたが、そのうちの約300万人がイギリスの奴隷船で輸送されており、そのほぼ半分がリバプールの奴隷船だった。ヨーロッパ中の奴隷貿易港の中でリバプールはアフリカの黒人奴隷を最も多く輸送した責任があり、奴隷貿易が行われた約400年間を通して比べてもリバプールより多くの奴隷貿易に関わったのは、ポルトガルが行ったブラジルのリオ・デ・ジャネイロとサルバドールの2港だけだった。現代でもリバプールは「奴隷産業の首都」と言われるのは驚くまでもない。



奴隷船の外観と内部の様子、約半数が途中で死亡した

出典 : Liverpool and the Slave Trade



⑥ リバプール最初の奴隷貿易商人 Liverpool's earliest slave traders

Sir Thomas Johnson (1664-1728) and Richard Norris (1670-1730)

- ・ 奴隷船 **The Blessing** で 1700 年 10 月にリバプール港を出発し、西アフリカから 140 人の奴隷を西インド諸島のバルバドスに向けて運び、1701 年 4 月に到着、同年後半には 150 人の奴隷を西インド諸島の英領 Antigua に運んでいる。
- ・ 奴隷船 The Blessing の船主の Richard Norris はおそらく Thomas Johnson と事業をやっていた仲だった。彼らはいりバプールで最も有名な**タバコと砂糖の商売人**であり、Cheshire チェシャーの**岩塩産業開発**にも関わっていた。彼らは政治活動にも活発で、町議会議員でありそれぞれ町長も経験していた。Johnson はリバプールの二人の国会議員の一人であり、1701 年から 1723 年まで務めた、Norris も国会議員を 1708 年から 1710 年まで務めている。両者が国会議員だった 1709—10 年には英国下院議会にリバプールにドックを建設する議案を提出している。これはリバプールの議会にドックを建設する権利を与えるもので、リバプールを英国の主要な港湾都市として発展させる重要な要素となった。

⑦ 奴隷貿易は何をもたらしたか？

リバプールの奴隷船の殆どはアフリカの黒人奴隷をカリブ海のイギリスの植民地に連れて行き、そこでほとんどの奴隷たちは大農園で働かされた。そこでは彼らはひどい環境の中で**砂糖の生産**の為に働いた。大農園の経営者は奴隷たちをサトウキビを植え、手入れし、収穫する仕組みに組織した。これらはどれも背骨を折るようなキツイ肉体労働で、気温は高く湿度が高い環境で、短時間で 2 回の食事を挟み、夜明けから日暮れまで働かされた。

収穫の季節は、ある者は蒸し暑い環境下でサトウキビから砂糖液とラム酒溶液を絞り出す工場で働き、**若年者・老人・女と子供は全て働けなくなるまで農作業に従事させられた**。子育て中の婦人は畑仕事を強制されたので多くの子供が早死にしていた。西インド地方では、厳しい環境、休みない労働、新しい**疫病**により寿命は短く、**奴隷の 1/3 は到着してから 3 年以内に死亡した**。こうして常に新しい奴隷の需要が継続し奴隷貿易商人には儲かるビジネスであった。

奴隷所有者は奴隷には賃金を支払う必要はなく、最小限の食事と寝床を与えるだけでよい**自分の個人所有物**と考えていた。彼らは奴隷たちを友人などの仲間や家族から自分勝手に離して他へ売り、少しの過失や不品行でも残酷に罰した。

黒人女性は監督者や所有者からしばしば性的な暴行を受けた。当局は奴隷には法的な如何なる権利も認めず、行為や態度に関する**人種差別法規**でも奴隷を言いなりになる身分とした。ほとんどのヨーロッパ人はアフリカ人を人間以下と見做し、彼らのその態度や行いは「聖書に反していない」との理解を求めた。この「家畜扱いの奴隷」は他の形態の奴隷や極端に残酷で自由が無い労働とは違って、**人間としての如何なる価値も認めないもの**だった。

しかしながら、彼らを抑圧する如何なる試みにも、アフリカ人は奴隷になる事には反抗した。罰せられる事があっても彼らはゆつくりと働き、非協力的であった。時には彼らは機械や道具を壊したり、時には暴動を起こして手足切断や処刑された。逃げる事に成功した者もいた、例えばジャマイカには住むには不適当な山の中に Maroons という**黒人逃亡奴隷の集落**があって、中には数百人規模の集落もあった。彼らは当局にとって常に厄介者集団であり、いわゆる Maroon War と呼ばれた武装闘争が二度（1731-39 年、1795 年）起きている。

奴隷にされたアフリカ人も、自分達自身の伝統や文化を維持するために、抵抗しながら方策を考えようとした。大農園の経営者は、新たに農園に来るアフリカ人には新しい名前を付け、家畜のように**焼印**を押してやる気を無くさせ、抵抗する意欲を破壊するように努力した。奴隷にされても彼らには、仕事の後の自分自身の時間や日曜日に、以前の生活の基本的な要素—即ち、家族の強いきずな、信仰、手工芸、民話、音楽や踊りなど—を維持し育む事ができた。このように過去との繋がりを維持する事は精神的な支えになり、農園経営者が侮辱的で非人道的な手段で服従させようとする状況にも耐えていけた。彼らの独自文明としての考え方や慣行を維持し、後世に伝えるには特に**女性の役割が重要であった**。

時が経つにつれてアフリカとヨーロッパの文化的伝統が混ざり合い、新しく活気に満ちた文化を作り上げてきた。例えば、言葉、料理、バラエティに富んだ音楽やダンスなどはより豊かになった。

大農園主はより豊かになり豪華な生活をし、植民地社会を支配し、地域政治を行い、**しばしばロンドンの中央政治に関わった**。しかし、大農園主の多くがイギリスに住み、自ら農園を訪問したとしても稀になり、経営をマネージャーに任せきりになるようになっていった。彼らは非常に裕福になり、イギリスの中でも大金持ちになっていった。**大方の農園主は、一般的にはかなりの財産がありリバプールとその周辺に住んでいた**。そこでは、彼らは最も豊かな奴隷貿易業のリーダーであり投資家であった。こうゆうシステムこそが奴隷貿易を支えていたのである。

⑧ 奴隷制廃止とその後

1780年代になって奴隷貿易の非人間性・残酷性への関心が高まり**奴隷制廃止運動**が始まり、すぐに社会の多くから支持を得る事となった。驚く事ではないが、これは**リバプールの商人たちから激しく反対された**。彼らは奴隷の売買、奴隷を使った植民地での農園経営にかかわっている商人達であり、一丸となって奴隷制廃止に反対する為にイギリス議会での活動を始めた。イギリスでは25年間の廃止運動の末ついに**1807年に奴隷制度は廃止された**。それからイギリスはヨーロッパの近隣国に圧力をかけ始め、10年以内にヨーロッパからは奴隷制度は消滅した。しかし、南北アメリカとアフリカの相互貿易は減少するどころか顕著に増えていった。1800年以降ではポルトガルとスペインが300万人のアフリカ人を奴隷とし、ブラジルとキューバの船を使って輸送した。これらの奴隷貿易も1860年代後半には終わった。1807年以降はイギリスの船は違法な奴隷貿易には関わっていない事は明白だが、**イギリスの植民地では1830年代後半まで奴隷は続いていた**。

アフリカと南北アメリカの奴隷経済界の繋がりは互恵ベースで続いており、続く1世紀の間に著しく拡大していった。特にリバプールは奴隷貿易を通じて築いてきた諸々の関係やコネをうまく活用していた。西アフリカからは、リバプールは金・象牙・コショウ等の貿易を続けており、特に椰子油が重要な輸入品になっていた。この新しい貿易の先駆者の殆どは嘗て奴隷貿易に積極的に携わった同じ男達でした。そして1世紀半後にはリバプールの商人達は西アフリカとの商売上の繋がりを著しく発展させ、自らをこの地域とヨーロッパとの交易を自らに有利にコントロールできる地位にした。カリブ海とアメリカとの貿易も継続していた。そして嘗て経営してきた大農場で生産してきた砂糖・ラム酒・タバコ・綿をまだ奴隷の労働に頼って生産していた。そうです、**アメリカ南部で奴隷が生産した綿花が19世紀中リバプールの経済にとつともない貢献をしてきました**。多分、南北戦争の間アメリカ南部11州からなる南部連合（Confederacy）は港で支持や同情を得たことは疑いありません。このようにして、**リバプールは奴隷制廃止の後も何十年にも亘って大西洋を越えて奴隷制を支持し利益を得続けました**。リバプールの奴隷貿易への参加はもっと広範なレガシーに関して疑問がもたれています。To what extent did the slave trade act as a stimulus and catalyst to the local economy? リバプールと住民にとって長期間の利益はどれほどだったか? リバプール市民は貿易の結果として出来てきた黒人社会にどのように対応してきたか? そして市はこの歴史的経緯と結果にどのように対応してきたか? これらは全て未だに大きく議論されており、今日の問題として残っているだけでなく継続して未来の世代に影響する議題でもある。

以上